

(第2次燕市総合計画等における達成目標)

1. 目標宣言
① 社会経済活動と感染症対策の両立に取り組みます。
② 産業観光を軸とした着地型観光を推進し、交流人口の増加を目指します。
③ 農業の持続的な発展につながる取組を積極的に推進します。

指標項目	基準値 (年度)	中間目標値 (R1年度)	目標値 (R4年度)	該当する 目標宣言
製造品出荷額等	3,844億6千万円(H25年)	4,310億円	4,375億円	①
観光入込客数	699,100人(H26)	770,000人	900,000人	②
ブランド米販売実績	33.3トン(H26年度)	36.0トン	38.0トン	③

2. 今年度の取り組み

No.	今年度の目標設定				取組結果			評価
	現状と課題	具体的な取組内容	目標指標				達成状況	
			指標名	現状値	目標値	実績値		
①	【コロナ禍による社会経済活動の低迷】未だ感染症拡大が続いている中、企業活動の活性化を図るとともに、落ち込んでいた消費の回復など、社会経済活動と感染症対策を両立させ、コロナ禍前の水準に戻すための取組みを行っていく必要があります。	(1)コロナ禍の長期化により経営状況が悪化した事業者が専門家の支援を受けて経営改善計画等を策定する費用を補助し、経営の立て直しやレジリエンス強化を支援します (2)燕応援フェニックスクーポンの第4弾を発行し、市内の飲食・小売・サービス関連等における消費を喚起します。 (3)企業が対面による営業活動等を行う際の感染症リスク管理を支援します。	中小企業持続化支援事業の補助金活用件数	-	50件	5件	(1)金融機関を通じて各種計画策定について周知してきました。目標値未達の理由としては専門家に依頼するよりも、借入を行った金融機関が事業計画を作成するなど必要な処置(借換等)を講じることにより、経営改善計画を策定するまでに至っていない事業所が多いこと、BCPについては県内企業でも14.0%の企業しか策定しておらず、市内企業でも策定する企業が少ないことが理由と認識しています。次年度も金融機関と連携し、各種計画策定を促進していきます。 (2)12月に第5弾を発行し、広報および公式ラインによりたび重ねて周知したことで、4、5弾ともに利用が伸び、ともに目標値を達成しました。 (3)宴会に係る補助金については、夏の暑気払いや忘年会、新年会のシーズン前に30人以上の宴会ができる事業者へ本事業の周知を行いました申請はありませんでした。事業者向けの補助金については、コロナ禍の落ち着きもあり、社会全体の検査についての考え方が変わってきていることから、申請が減ってきたと考えています。	3
			燕応援フェニックスクーポンの利用率	75.0%	85.0%	4弾 91.02% 5弾 86.64%		
			PCR検査費用補助金の活用件数(申請事業者数)	161社	180社	69社		

〈評価区分〉 5:取組によって想定(目標値)以上の成果が得られた 4:取組のすべてを実施し、見込通りの成果をあげた(期待通りの成果物が得られた) 3:取組のすべてを実施した 2:取組方針等を策定した 1:協議・検討中

(第2次燕市総合計画等における達成目標)

1. 目標宣言	
①	社会経済活動と感染症対策の両立に取り組みます。
②	産業観光を軸とした着地型観光を推進し、交流人口の増加を目指します。
③	農業の持続的な発展につながる取組を積極的に推進します。

指標項目	基準値 (年度)	中間目標値 (R1年度)	目標値 (R4年度)	該当する 目標宣言
製造品出荷額等	3,844億6千万円(H25年)	4,310億円	4,375億円	①
観光入込客数	699,100人(H26)	770,000人	900,000人	②
ブランド米販売実績	33.3トン(H26年度)	36.0トン	38.0トン	③

2. 今年度の取り組み

No.	今年度の目標設定				取組結果		評価
	現状と課題	具体的な取組内容	目標指標			達成状況	
			指標名	現状値	目標値		
②	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、各種イベントの中止など観光需要は大きく落ち込み、市内の観光産業でも厳しい状況が続いており、ウィズコロナ・ポストコロナ期における観光入込客の回復や交流・応援(燕)人口増加に向けた効果的な施策の展開が必要となっています。</p> <p>①ものづくりの技を地域の貴重な観光資源として活用するとともに、産業観光の拠点である産業史料館と燕市観光協会が連携することで、さらなる情報発信や施設の活性化を推進し、交流人口の拡大を図っていく必要があります。</p> <p>②道の駅国上をはじめ市内の観光拠点施設や自然観光など地域の観光情報を関係機関と戦略的にPRし、誘客に向けての取組みを加速していく必要があります。</p> <p>③地域に多大な恩恵をもたらしてきた大河津分水路が通水100年を迎えることから、これを契機としたイベントやツアーなどにより着地型観光をさらに磨き上げていく必要があります。</p>	<p>コロナ禍ではあるもののポストコロナも見据え「観光誘客」に向けた取り組みを実施していく必要があります。既存の観光資源の磨き上げに尽力するとともに、令和4年に100周年を迎える大河津分水路の記念イベントを実施するなどして地域観光の推進を図ります。</p> <p>(1)産業史料館の来館者増を図ります。コロナ禍により高まった教育旅行ニーズを継続的に捉えるため、引き続き旅行エージェントへのプロモーション活動を実施いたします。また、更なる誘客促進を図るため大手旅行エージェントとの観光券契約の締結を新たにを行うほか、産業史料館における受入れ等の体制を燕市観光協会と連携し強化することで、産業観光拠点として更なる来館者増を目指します。</p> <p>(2)道の駅国上の新たな指定管理者への移行を契機に、地域資源を最大限に生かしながら、自然観光における観光交流拠点施設として、更なる集客や魅力向上を図っていきます。7月1日のリニューアルオープンに向け、効果的なPRやイベント告知など、指定管理者とともに、さらなる活性化を目指します。</p> <p>(3)通水100周年を迎える大河津分水を観光ルートに加えた旅行商品を造成する事業者にも補助するなど、国上山や大河津分水など、地域の観光資源の磨き上げを目指します。</p>	燕市観光入込客数(暦年)	500,184人(R3年) 511,057人(R2年) 967,590人(R1年)	960,000人	838,091人	<p>観光入り込み客数は、大河津分水通水100年の記念イベントや道の駅国上のリニューアルオープンにより、大きく増えた一面もありましたが、3度にわたる新型コロナウイルスの感染拡大が影響し、イベントや祭りの開催にも規模の縮小など一定の制限があったため、客足が伸び悩み、前年より約33万人増えたものの、目標には約12万人届きませんでした。</p> <p>(1)産業史料館の取組みとしては、恒例の企画展事業(5回)に加え、夏季における子供向けのプロモーション等を行ってきました。しかし、コロナ禍の落ち着きから、教育旅行の需要が秋口から大きく減少し、年度後半における入館者数は伸び悩みました。一方で、燕を題材にした漫画の複製原画展など、新たな客層へのアプローチをおこなったことも功を奏し、個人・団体等の来館が少しづつ増え、教育旅行の減少分を補いましたが、目標には届きませんでした。</p> <p>(2)道の駅「国上」では、リニューアルイベントや秋冬の収穫祭イベントをはじめ、毎週イベントを実施し集客に務めました。秋の行楽シーズンまでは順調に集客を伸ばしていましたが、冬季間に入ると天候の影響を大きく受け客足が鈍化しました。それでも前年度比2倍の入込客数となりました。</p> <p>(3)大河津分水を活用した旅行商品の造成支援では、大河津分水や国上地区の観光資源を大きくPRしましたが、新型コロナ感染症の影響により、催行中止になったツアーもあり、目標値には届きませんでした。</p>
			産業史料館の入館者数	17,753人(R3年度) 13,339人(R2年度) 18,130人(R1年度)	20,000人	19,498人	
			道の駅「国上」の入込客数	146,980人(R3年度) 142,054人(R2年度) 179,142人(R1年度)	180,000人	298,846人	
			燕・弥彦広域観光連携会議大河津分水を活用した旅行商品造成支援事業補助金申請件数	0件	10件	8件	

<評価区分> 5:取組によって想定(目標値)以上の成果が得られた 4:取組のすべてを実施し、見込通りの成果をあげた(期待通りの成果物が得られた) 3:取組のすべてを実施した 2:取組方針等を策定した 1:協議・検討中

(第2次燕市総合計画等における達成目標)

1. 目標宣言	
①	社会経済活動と感染症対策の両立に取り組みます。
②	産業観光を軸とした着地型観光を推進し、交流人口の増加を目指します。
③	農業の持続的な発展につながる取組を積極的に推進します。

指標項目	基準値 (年度)	中間目標値 (R1年度)	目標値 (R4年度)	該当する 目標宣言
製造品出荷額等	3,844億6千万円(H25年)	4,310億円	4,375億円	①
観光入込客数	699,100人(H26)	770,000人	900,000人	②
ブランド米販売実績	33.3トン(H26年度)	36.0トン	38.0トン	③

2. 今年度の取り組み

No.	今年度の目標設定				取組結果		評価	
	現状と課題	具体的な取組内容	目標指標			達成状況		
			指標名	現状値	目標値			実績値
③	<p>【担い手の確保】 農業経営者の高齢化や就農者の減少が進んでいることから、担い手農家への農地集積による大型機械の導入やほ場管理などの負担が増加しています。 若者の就農やその定着を推進することにより、新たな担い手を確保する必要があります。</p> <p>【魅力ある農産物の生産拡大】 水稲単作の農家が多くを占めていることから、コロナ禍等による米需要の変化の影響を受けやすく、農業所得を確保するためには園芸作物の取組を推進する必要があります。</p> <p>【環境に配慮した農業の推進】 農村地域において、もみ殻などの貴重な有機資源が焼却や廃棄されていることから、周辺環境に配慮した資源の有効活用を進める必要があります。</p>	<p>(1)農業所得を向上するため、機械作業が可能で収益の増加が期待できる「えだまめ」、「たまねぎ」及び販路の拡大が期待できる「輸出用米」の作付け拡大を推進することで、農業者の所得増加を図ります。</p> <p>(2)新規就農を希望する人の相談に乗り、国や県の事業を含め、様々な支援をすることで地域の新たな担い手を支援します。</p> <p>(3)有機資源の循環や有効活用により、農業者の環境意識の向上を図るため、必要な機器の導入を支援します。</p> <p>(4)市独自のチャレンジ・ファーマー支援事業補助金により、農業所得向上に積極的な農業経営者を支援します。</p> <p>(5)燕市産農産物の消費活性化キャンペーンを実施し、燕市産農産物を全国にPRするとともに生産者所得の向上を推進します。</p> <p>(6)インターネットを活用し、新たな独自販路の開拓を目指す農業者を支援します。</p>	<p>えだまめとたまねぎの作付面積</p> <p>輸出用米の栽培面積</p> <p>新規就農数</p> <p>踏み出せ農業スタートアップ事業申請数</p> <p>就農相談件数</p> <p>もみ殻等循環支援事業の申請件数</p> <p>チャレンジ・ファーマー支援事業補助金の申請件数</p> <p>キャンペーン申請者数</p> <p>ECサイト活用補助金申請者数</p>	<p>23.4ha</p> <p>57.3ha</p> <p>2人</p> <p>2人</p> <p>6件</p> <p>17件</p> <p>23件</p> <p>20,315件</p> <p>3件</p>	<p>31.0ha</p> <p>70.0ha</p> <p>5人</p> <p>2人</p> <p>7件</p> <p>15件</p> <p>13件</p> <p>25,000件</p> <p>5件</p>	<p>22.9ha</p> <p>63.9ha</p> <p>0人</p> <p>1人</p> <p>5件</p> <p>18件</p> <p>13件</p> <p>17,057件</p> <p>1件</p>	<p>(1)各種研修会を2回開催し「えだまめ」や「たまねぎ」をはじめとした高収益園芸作物の生産拡大を推進しましたが、作業手間が多いうえ、天候等の状況により収穫量が激減することなどが敬遠され、作付面積は前年度と同様にとどまり、目標には届きませんでした。また、輸出用米は支援制度の拡充もあり、昨年よりも作付面積が増えましたが、目標値には届きませんでした。</p> <p>(2)各種研修会開催時などに事業周知を図る他、関係機関と情報共有しながら新規就農に向けた取組を推進しました。昨年並みの就農相談やスタートアップ支援の活用もありましたが現経営者から経営の承継まで至らなかったため新規就農者はいませんでした。</p> <p>(3)もみ殻等循環支援事業の申請件数は、資源の有効活用など環境保全型農業への関心の高まりなどにより、18件の申請があり、目標以上の実績が得られました。</p> <p>(4)チャレンジファーマー支援事業の活用については、事業PRIに努め、経営規模拡大、複合営農化、先進技術導入等を促した結果、活用が集中した昨年度の数には届きませんでした。目標申請件数を達成しました。</p> <p>(5)燕市産農産物の消費活性化キャンペーンは、出展者、参加店舗を増やし、8月1日から3か月間開催しました。応募要件を5点から10点に引き上げたため、昨年の申請件数より少なく目標には達しませんでした。応募点数から予測される市内農産物の売上高は約7,400万円と昨年の約5,670万円より大きく伸び、市内農産物の消費喚起につながりました。</p> <p>(6)ECサイト活用補助金については、事業説明会などで事業PRIに努めましたが、肥料やエネルギー価格の高騰などにより、農業を取り巻く環境が厳しかったことなどから、ECサイトを活用した独自の販路開拓に取り組む農業者は少なく、目標には届きませんでした。</p>	3

(評価区分) 5:取組によって想定(目標値)以上の成果が得られた 4:取組のすべてを実施し、見込通りの成果をあげた(期待通りの成果物が得られた) 3:取組のすべてを実施した 2:取組方針等を策定した 1:協議・検討中